

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮南中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	各教科において、「さいたま市の学校教育 推進の指針・指導の努力点」を確実に把握しながら、資質・能力における評価規準による評価指針を見直し、「深い学びの鍵」である見方・考え方をさらに意識した授業改善を行っていく。また、今後も評価を集計し、全体で周知しながら各教科において生徒の習熟度を把握し、各教職員に広く伝えていく。
思考・判断・表現	各教科において、「さいたま市の学校教育 推進の指針・指導の努力点」を確実に把握しながら、資質・能力における評価規準による評価指針を見直し、「深い学びの鍵」である見方・考え方をさらに意識した授業改善を行っていく。学校課題研究でも、主体的に学習に取り組む態度をテーマに研究を計画し、各教職員に広く伝えていく。
主体的に学習に取り組む態度	次年度に向けては、身に付けた力を活用することの喜びを実感できるような展開を考え、授業の学習過程を大切に形成的な評価を継続し、生徒が見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげるなど、学習に取り組めるような授業改善を行う必要がある。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	年度末の学年評価において、全教科・全生徒における「知識・技能」評価にCがない状況。	⇒ 学期ごとに「知識・技能」の評価を集計し、全体で周知しながら各教科において生徒の習熟度を把握し、授業改善をしていく。
思考・判断・表現	年度末の学年評価において、全教科・全生徒における「思考・判断・表現」評価にCがない状況。	⇒ 適切な時期に研修を行い、学校全体で周知しながら、各教科等において形成的な評価の工夫に取り組み、生徒の学習状況について授業ごとに学習状況を把握しながら指導に当たる。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の生活に関する調査において「学びに向かう力等」の結果が、本校の昨年度の結果と比べて肯定的な回答の増加。	⇒ ICT機器の活用や、身に付けた力を活用することの喜びを実感できるような展開を考え、授業の学習過程を大切に生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように授業改善をしていく。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	学年末の成績は、通常学級全教科・全生徒における「知識・技能」のC評価は6%であり、8割以上の目標達成となった。ただ、学年と教科によってはC評価が2割を超えるものもあり、学年の実態や教科の特性を踏まえながら、引き続き指導と評価の改善に取り組む必要がある。	A
思考・判断・表現	学年末の成績は、通常学級全教科・全生徒における「思考・判断・表現」のC評価は10%であり、8割以上の目標達成となった。ただ、学年と教科によってはC評価が3割を超えるものもあり、学年の実態や教科の特性を踏まえながら、引き続き指導と評価の改善に取り組む必要がある。	A
主体的に学習に取り組む態度	昨年度の結果と比べて「学びに向かう力等」が、全15項目中9項目が下回り、平均-2.8p tであった。特に第1学年において大きく差が開く結果となった。方策として「ICT機器の活用」に取り組んでおり、昨年度と比べて「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習をすることができましたか」や「これまでの授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか」の質問事項は概ね向上しているため、ICT機器の活用が主体的に学習に取り組む態度を養うことに必ずしも関係があるとは限らないことが分かった。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	三教科ともに全国(公立)と比べ良好な成果を得ることができた。数学や英語の結果を踏まえて、国語科の知識・技能をさらに育成していくことを課題とする。また、内容である「我が国の言語文化に関する事項」を重点とする。
思考・判断・表現	三教科ともに全国(公立)と比べ良好な成果を得ることができた。数学や英語の結果を踏まえて、国語科の思考・判断・表現をさらに育成していくことを課題とする。また、内容である「話すこと・聞くこと」を重点とする。
主体的に学習に取り組む態度	「国語(数学、英語)の勉強は好きですか」という生徒質問紙の回答から、全国と比べても良好な結果を得られた。それを踏まえ、本校の生徒は興味・関心をもって学習に取り組んでいると考える。ただ、昨年と比べて学力の調査結果は国語・数学ともに全国(公立)よりも数値の差が縮まったため、知識・技能、思考・判断・表現の両観点において主体的に資質・能力を身に付けていけるよう、形成的な評価を活用しながら、さらに生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように授業改善をしていく。

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
- ② 詳細分析(学年・教科担当)
- ③ 分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査は参考値扱いとなります	
中1	全体の学力に関する調査では、概ねさいたま市の調査を大きく上回るが、理科の『「地球」を柱とする領域』が市と比べて-1.6p tであり課題がみられる。異集団経年比較において昨年の集団でも同じ領域に課題がみられるため、本校における学習の重点を意識していく必要がある。また生活習慣に関する調査では、Well-Beingの分類で質問の2問中2問も市の調査を下回ったことから、新しい環境において人間関係を構築することが苦手であると考えられる。
中2	全体の学力に関する調査では、概ねさいたま市の調査を大きく上回るが、『国語の我が国の言語文化に関する事項』が市と比べて-1.9p tであり課題がみられる。異集団経年比較において昨年の集団でも同じ領域に課題がみられるため、本校における学習の重点を意識していく必要がある。また生活習慣に関する調査では、基本的な生活習慣、特に起床時間と朝食の習慣に課題がみられるため、重点的に指導につなげていく必要がある。
中3	生活習慣に関する調査では、自尊意識の分類で質問の5問中4問が市の調査を下回ったことから、自分の価値に自信がないことが課題としてあげられる。特に「先生は、あなたのように自分を認めてくれていると思いますか。」の質問において-5.6p tとなっていることから、学校環境において最終的な成績や評価だけではなく、それまでの努力や過程のよさを伝えたり、形成的な評価を継続させて信頼関係を築いたりすることが大切である。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし